

Morphological character, planting and naturalization of *Bischofia polycarpa* (H.Lév.) Airy Shaw

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00053481

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



中西弘樹：チュウゴクアカギ *Bischofia polycarpa* (トウダイグサ科) の特徴・植栽の記録と野生化

Hiroki Nakanishi: Morphological character, planting and naturalization of *Bischofia polycarpa* (H.Lév.) Airy Shaw

江戸時代から開港していた長崎は、明治以後も中国との交易が盛んで、オランダ人や中国人あるいは里帰りした日本人によって多くの植物が初めて日本に導入され、植栽されてきた。代表的な植物にシーボルトノキ *Rhamnus utilis* Decne., デジマノキ *Agathis alba* Foxw., トックリノキ *Brachychiton rupestris* (Lindl.) K.Schum., トウカエデ *Acer buergerianum* Miq., ナンキンハゼ *Triadica sebifera* (L.) Small, チャンチン *Toona sinensis* (A.Juss.) M.Roem.などの樹木やダンドク *Canna indica* L., ハナカタバミ *Oxalis bowieana* Lodd.などの草本類があり、その中にアカギ *Bischofia javanica* Blumeが知られていた(外山1980)。しかし、このアカギが沖縄などで見るアカギとは明らかに違うことが以前から気になっていた。このことを生前に初島住彦先生にお話したところ、長崎と同じアカギによく似た植物が、鹿児島県都市の万葉植物園にもあり、調べたところ、中国にある *Bischofia polycarpa* (H. Lév.) Airy Shawであり、これをチュウゴクアカギとよぶとのこと返事をいただいた。

*Bischofia polycarpa*は1912年にニレ科エノキ属 (*Celtis*) の新種として命名されていたが (Léveillé 1912), その後長い間 *B. javanica*と誤って同定されてきたもので、1972年になってようやく Airy Shaw (1972) によって学名の新組み合わせが行われ、命名されたものである。最近になって中国の植物相をまとめた *Flora of China* の中では、トウダイグサ科アカギ属 (*Bischofia*) として *B. polycarpa*と *B. javanica*の2種が記載されている (Li and Gilbert 2008)。しかし、日本ではアカギ属はアカギ1種からなるとされてきたし (大場1989), チュウゴクアカギの和名についても全く知られておらず、その特徴についても国内の文献にはない。また栽培されたもの的大木や野生化についても知られていなかったもので、その種の特徴とともに、記録しておきたい。

形態的特徴

アカギについては沖縄県那覇市、チュウゴクアカギについては長崎県長崎市に植栽されている個体から葉および果実を採集し、比較した。果実の大きさについてはそれぞれ10個ずつノギスを用いて測定した。

アカギとチュウゴクアカギの比較をTable 1に示した。それらの明確な違いはアカギが常緑性であるのに対して、チュウゴクアカギが落葉性である点である。葉はいずれも3出複葉で、全体の形は似ているが (Figs. 1-1,2), チュウゴクアカギの小葉は、アカギよりも幅広く広卵形で、鋸歯は細かくはっきりしている (Fig. 1-3)。また、花序や果実の大きさ、熟した際の色も明確に異なり、チュウゴクアカギはアカギに比べて、花序が細長く、果実の大きさは約2/3と小さく (Fig. 1-4), より赤味が強い。したがって、これらの種は果実期に最も容易に区別できる。

長崎市内における植栽木

外山 (1980) は、長崎市内に栽培されている渡来の珍しい植物として、アカギ (チュウゴクアカギのこと) をあげ、市内の磨屋小学校 (長崎県で最も古い小学校で、1873年に開校、現在は諏訪小学校) と長崎大学片淵キャンパスに古くからあって、その種子から殖やしたものが長崎大学文教キャンパス、さらにそれを分けたものが隣接した西浦上中学校にあることを記録している。それらはいずれも現存しており、諏訪小学校校庭には隣接して2本あり、1本は胸高周囲271cm, 樹高約18m, もう1本は胸高周囲268cm, 樹高約22mの大木となっている。長崎大学片淵キャンパスのものは胸高周囲278cm, 樹高約17m, 同じく文教キャンパスには8本あり、最大のものは胸高周囲227cm, 樹高約22mとなっている。

Table 1. チュウゴクアカギとアカギの比較

	季節性	頂小葉	葉縁	花序	果実の色	果実の大きさ (mm)	
						縦 (n=10)	横 (n=10)
チュウゴクアカギ	落葉性	広卵形	細かい鋸歯	総状花序	赤茶色	7.0 ± 0.3	7.9 ± 0.5
アカギ	常緑性	広楕円形	粗い鋸歯または波形	円錐花序	褐色	10.9 ± 0.3	12.9 ± 0.3



Fig. 1. Comparison between *Bischofia polycarpa* and *B. javanica*. 1. *B. polycarpa* (in Nagasaki, Nagasaki Prefecture), 2. *B. javanica* (in Naha, Okinawa Prefecture), 3. Leaf margins a. *B. polycarpa*, b. *B. javanica* (scale: mm), 4. Inflorescences a. *B. polycarpa*, b. *B. javanica* (scale: cm)
 チュウゴクアカギとアカギの比較 1. チュウゴクアカギ (長崎県長崎市), 2. アカギ (沖縄県那覇市), 3. 葉縁 a. チュウゴクアカギ, b. アカギ (スケールは1mm), 4. 果実序 a. チュウゴクアカギ, b. アカギ (スケールは1cm)

野生化

Nakanishi (1991) は、長崎大学キャンパス内で冬期に多くの鳥が集まるメタセコイアの木の下に種子トラップを置き、7年間に渡って鳥によって散布された種子を調べたが、鳥に運ばれる種子の中で頻度の高い順に、トウネズミモ *Ligustrum lucidum* Aiton, クスノキ *Cinnamomum camphora* (L.) J.Presl, クロガネモチ *Ilex rotunda* Thunb., ナンキンハゼ *Sapium sebiferum* (L.) Roxb. に次いで、アカギ (チュウゴクアカギのこと) であったことを記録している。チュウゴクアカギは秋に赤褐色、後に黒褐色になる漿果をつけ、明らかに鳥散布植物である。

チュウゴクアカギが多く植栽されている長崎大学文教キャンパスと隣接した西浦上中学校の間の道路の縁、溝などには本種が野生化しているし、長崎大学からおおよそ1km周辺の林地にもまれに成木が生育しているのが観察される。最も離れた地点は、約1.5km北の長崎市泉町の山中で、そこには直径約20cmの成木や小個体が多数見られる。それらの個体はいずれも長崎大学あるいは西浦上中学校に植栽されている母樹から鳥によって散布されたものと考えられる。

アカギも東南アジアを中心とした熱帯から亜熱帯に広く分布を広げ、野生化しており (Smith 1981; Li and Gilbert 2008), 小笠原諸島にも侵入していることが知られている (大場1989)。チュウゴクアカギもアカギと同じように容易に種子で繁殖し、成長も早いことから、今後分布を広げていく可能性があり、注目していく必要があろう。

謝辞

チュウゴクアカギについてご教示いただいた故初島住彦先生、文献をいただいた京都大学総合博物館の永益英敏博士にお礼を申し上げます。

引用文献

- Airy Shaw, H. K. 1972. Nomenclatural note of *Bischofia racemosa* Cheng & Chu (*Bischofiaceae*). *Kew Bull.* **27**: 271-273.
- Léveillé, H. 1912. *Decades plantarum novarum*. XCIII-C. *Repert. Spec. Nov. Regni Veg.* **11**: 295-307.
- Li, B.T. and Gilbert, M. G. 2008. *Bischofia* Blume, *Flora of China* **11**: 217-218.
- Nakanishi, H. 1991. Annual, monthly and daily variations of avian seed dispersal in an urban area. *Hikobia* **11**: 73-83.
- 大場秀章. 1989. トウダイグサ科. 佐竹義輔・原 寛・亘理俊次・富成忠夫 (編), 日本の野生植物木本 I. pp.257-271. 平凡社, 東京.
- Smith, A. C. 1981. *Flora Vitiensis Nova*. Vol. 2. Pacific Tropical Botanical Garden, Lawai.
- 外山三郎. 1980. 長崎県植物誌. 長崎県生物学会, 長崎.

(〒852-8521 長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室 Biological Laboratory, Faculty of Education, Nagasaki University, Bunkyo-machi 1-14, Nagasaki 852-8521, Japan)

(Received January 27, 2012; accepted June 10, 2012)